

Express5800/MW300e,MW500e  
(N8100-1343,1344)  
**パッチ適用手順書**

本書は、Express5800/MW300e,MW500e(N8100-1343,N8100-1344)の  
運用/管理者を対象にした、パッチ適用に関する手順書です。

(Management Consoleの使用方法は、マニュアルなどをご覧ください)

2007/4/26 第1版

NEC

# 目次

・パッチ適用の基本手順	.....	3
・アップデートモジュール適用時の注意・制限事項	.....	4
・オンラインアップデートでの適用方法	.....	7
・オンラインアップデート以外での適用方法	.....	12
・参考資料		
バックアップ手順	.....	16
バックアップ例1: Windowsマシンへの定期バックアップ	.....	17
バックアップ例2: Windowsマシンへの即時バックアップ	.....	19
バックアップ例3: テープデバイス(DAT)への定期バックアップ	.....	21
バックアップ例4: テープデバイス(DAT)への即時バックアップ	.....	23
バックアップの補足事項	.....	26

# パッチ適用の基本手順

環境保存(バックアップ)

```
graph TD; A[環境保存(バックアップ)] --> B[オンラインアップデートでの適用]; A --> C[オンラインアップデート以外での適用];
```

オンラインアップデート  
での適用

オンラインアップデート  
以外での適用

# アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(1/3)

## (1)共通の注意、制限事項

- ・アップデートモジュールは、必ず、公開された順番で適用してください。
- ・オンラインアップデートでは1モジュール毎に再起動が必須です。
- ・オンラインアップデート以外の方法では、全てのモジュール適用後に再起動が必要になります。

## (2)ロードバランスクラスタ構成での注意・制限事項

- ・マスタ、スレーブの順で、すべての本装置へ適用して下さい。
- ・マスタへの適用前に、マスタのManagement Consoleに接続し、システム > ロードバランス 画面にて、ミラーリング間隔に "NO"を設定して下さい。
- ・適用前に、サービス画面の[停止]ボタンにて、各種サービスを停止して下さい。TELNET、FTPサービス以外のサービスについては、再起動によりもとの起動状態に戻ります。
- ・適用後に、マスタから先にシステムの再起動を行って下さい。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行ってください。
- ・すべての本装置へアップデートモジュールを適用後、システム > ロードバランス画面にて、ミラーリング間隔を設定して下さい。

## アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(2/3)

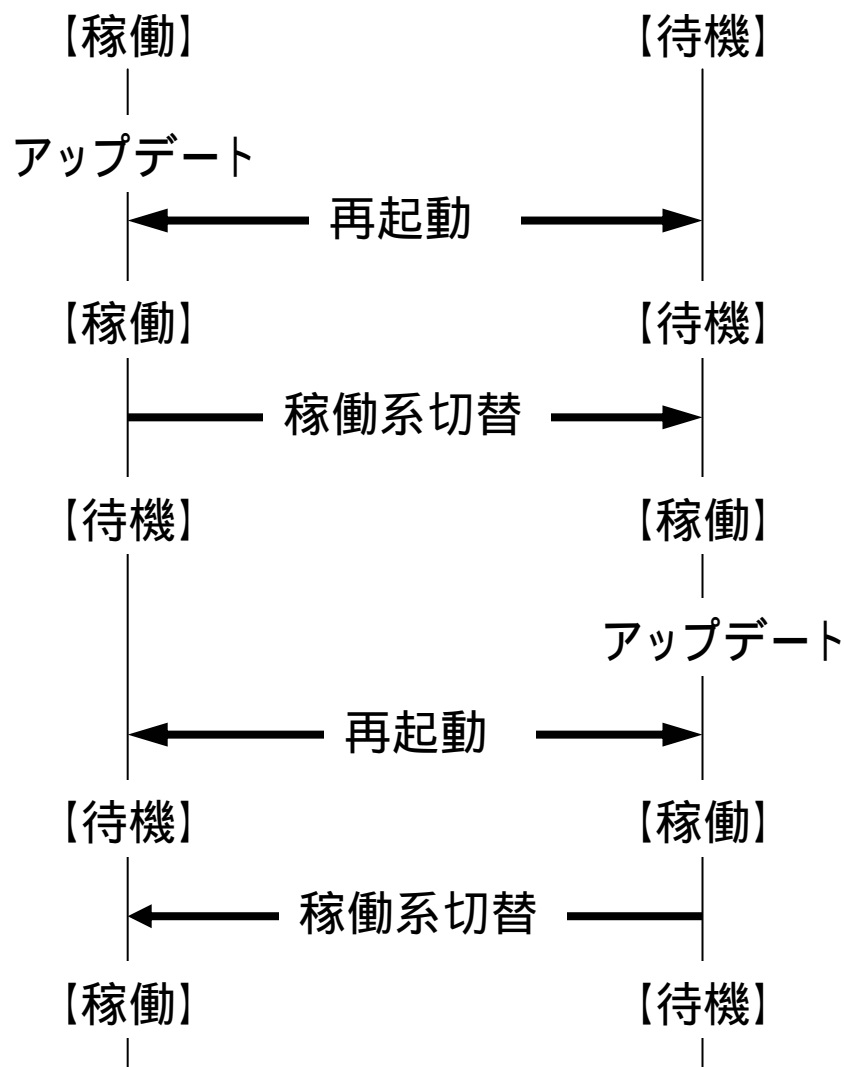
### (3)フェイルオーバークラスタ構成での注意・制限事項

- ・すべての本装置について稼動サーバに切り替えた状態で適用して下さい。
- ・オンラインアップデートで適用する場合は、適用後に、稼動サーバの状態のまま、システムの再起動を行って下さい。  
コマンドで適用する場合は、全ての本装置で適用後に、システムの再起動を行ってください。  
どちらの場合も、CLUSTERPRO Webマネージャから再起動を行って下さい。

フェイルオーバークラスタ構成時の適用イメージは、次ページのとおりです。

# アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(3/3)

## フェイルオーバークラスタ構成時の適用イメージ



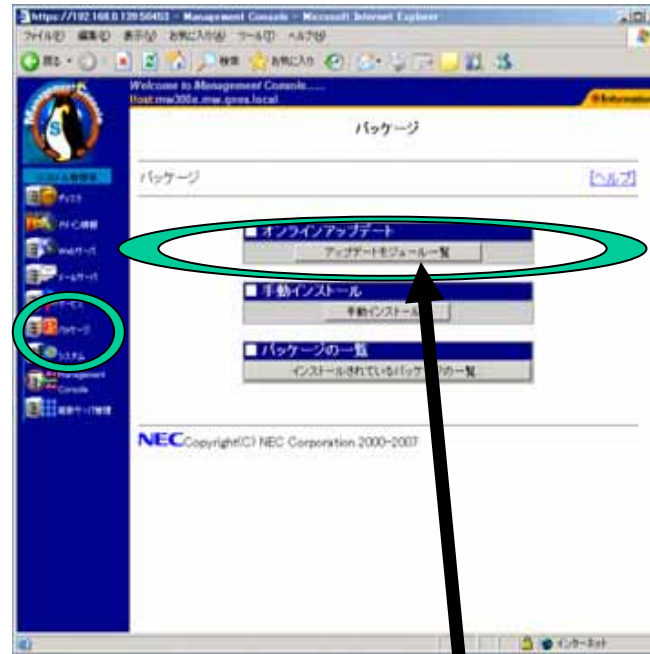
再起動は、CLUSTERPRO Webマネージャから「クラスタシャットダウン」で行います。以降も同様です。

稼働系の切替は、CLUSTERPRO Webマネージャから行います。以降も同様です。

# オンラインアップデートでの適用(1/5)

適用可能なアップデートモジュールの一覧を確認します。  
Management Console でパッケージをクリックし、[オンラインアップデート]の[アップデートモジュール一覧]ボタンをクリックして下さい。

パッケージ



[アップデートモジュール一覧]  
ボタンをクリック

## オンラインアップデートでの適用(2/5)

初めてオンラインアップデートを利用する場合、また公開モジュールの最新情報を取得する場合は基本サポートサービスのサポート契約の認証情報の入力が必要です。

一部アップデートはサポート非契約者にも提供されます。サポートご契約がないお客様は[認証しない]ボタンを押してください。



認証情報を入力して[送信]、  
もしくは[認証しない]



## オンラインアップデートでの適用(3/5)

ネットワーク経由で取得した公開モジュール情報から適用可能なアップデートモジュールの一覧を表示します。未適用のモジュールには「適用」欄に「未」と表示されます。

適用したいモジュールの[適用]ボタンを押すと適用確認画面が表示されます。

最終更新日付: 2007/04/23

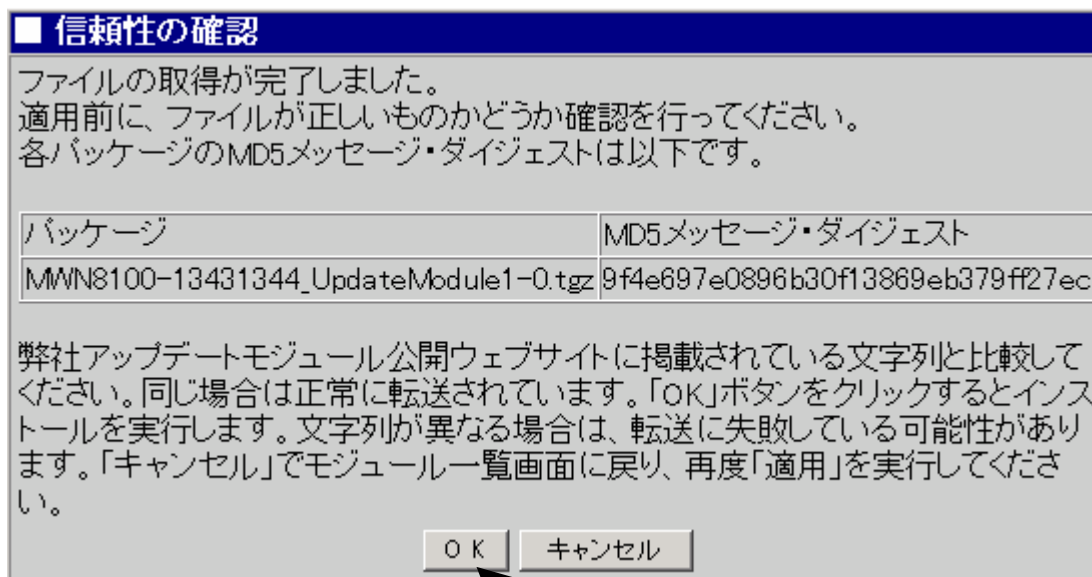
最新情報に更新

■ アップデートモジュール一覧				
日付	概要	パッケージ名	適用	操作
2007/4/19	Express5800/MW300e(N8100-1343)、Express5800/MW500e(N8100-1344)アップデートモジュール Rel1.0 をリリースします。	<a href="#">N8100-1343_N8100-1344_UpdateModule-1.0</a>	未	<input type="button" value="適用"/>

適用したいモジュールの  
[適用]ボタンをクリック

## オンラインアップデートでの適用(4/5)

ネットワーク経由で取得した公開モジュールのパッケージの信頼性の確認を行ってください。アップデートモジュール公開サイトに掲載されているメッセージダイジェスト文字列と画面に表示されるメッセージダイジェスト文字列が一致する事を必ず確認してから[OK]ボタンを押してください。[OK]ボタンを押すとアップデートモジュールが実際に適用されます。



MD5 文字列を確認してから  
[OK]ボタンをクリック

## オンラインアップデートでの適用(5/5)

[戻る]ボタンを押して下さい。アップデートモジュールは、システムを再起動することにより適用されます。Management Consoleからシステムを再起動して下さい。ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先にシステムを再起動してください。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行ってください。フェイルオーバクラスタ構成の場合は、必ず、CLUSTERPRO Webマネージャの「クラスタシャットダウン」でシステムを再起動して下さい。

「クラスタシャットダウン」の方法については、CLUSTERPROの「CLUSTERPROシステム構築ガイド リファレンスガイド」を参照して下さい。

### ■ 操作結果通知

アップデートモジュール Rel 1.0 の適用を完了するには再起動を行う必要があります。再起動せずに別のアップデートモジュールを適用すると、アップデートモジュールが正しく適用されませんので必ず再起動してください。  
フェイルオーバクラスタ構成の場合には、CLUSTERPRO Webマネージャから、「クラスタシャットダウン」で再起動を行ってください。

戻る

[戻る]ボタンをクリック

## オンラインアップデート以外での適用(1/3)

オンラインアップデートで適用されない場合は、適用するアップデートモジュールを、本装置にダウンロードし、コマンドを実行して適用します。

ダウンロードしたアップデートモジュールが本装置の /tmp 配下にあるものとします。/tmp 以外にアップデートモジュールを置いた場合は、実際のディレクトリに読み替えて下さい。

(1) 本装置に telnet します(login 名 : admin)。

ログイン後、su コマンドで root 権限を取得します。

ダウンロードしたアップデートモジュールの形式により、以後の手順が変わります。

以下を参照し、適切な手順へお進み下さい。

・tgz 形式(セキュリティアップデート、WBMC アップデート)の場合

(2) へ進んで下さい。

・rpm 形式の場合(WBMC アップデート)

(4) へ進んで下さい。

(2) /tmp ディレクトリにて以下のコマンドを実行し、アップデートモジュールを解凍します。

```
# tar -xzf アップデートモジュールファイル
```

## オンラインアップデート以外での適用(2/3)

(3) /tmp ディレクトリに以下のファイルが作成されます。

- ・MailWebServer\_UpdateModule.pl
- ・InstallFileList.txt
- ・MailWebServer\_UpdateRPM.tgz
- ・onlineupdate-1.x.sh ( x は、バージョンによって異なります)

(4) サービスの停止

Management Console の[サービス]画面から telnet 以外のすべてのサービスを停止させます。

(5) アップデートモジュールの適用

/tmp ディレクトリにて以下のコマンドを実行します。

- ・tgz 形式の場合  
# perl MailWebServer\_UpdateModule.pl
- ・rpm 形式の場合  
# rpm -Uvh --nodeps RPMパッケージ名

コマンドの実行は、telnet から root 権限で行って下さい。  
コマンドを実行するとパッケージがインストールされます。

## オンラインアップデート以外での適用(3/3)

### (6) システムの再起動

全てのモジュールを適用した後に、システムを再起動します。

ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先に再起動を行ってください。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行ってください。フェイルオーバクラスタの場合は、必ず、CLUSTERPRO Webマネージャから、「クラスタシャットダウン」で再起動を行って下さい。

「クラスタシャットダウン」の方法については、CLUSTERPRO の「CLUSTERPROシステム構築ガイドリファレンスガイド」を参照して下さい。

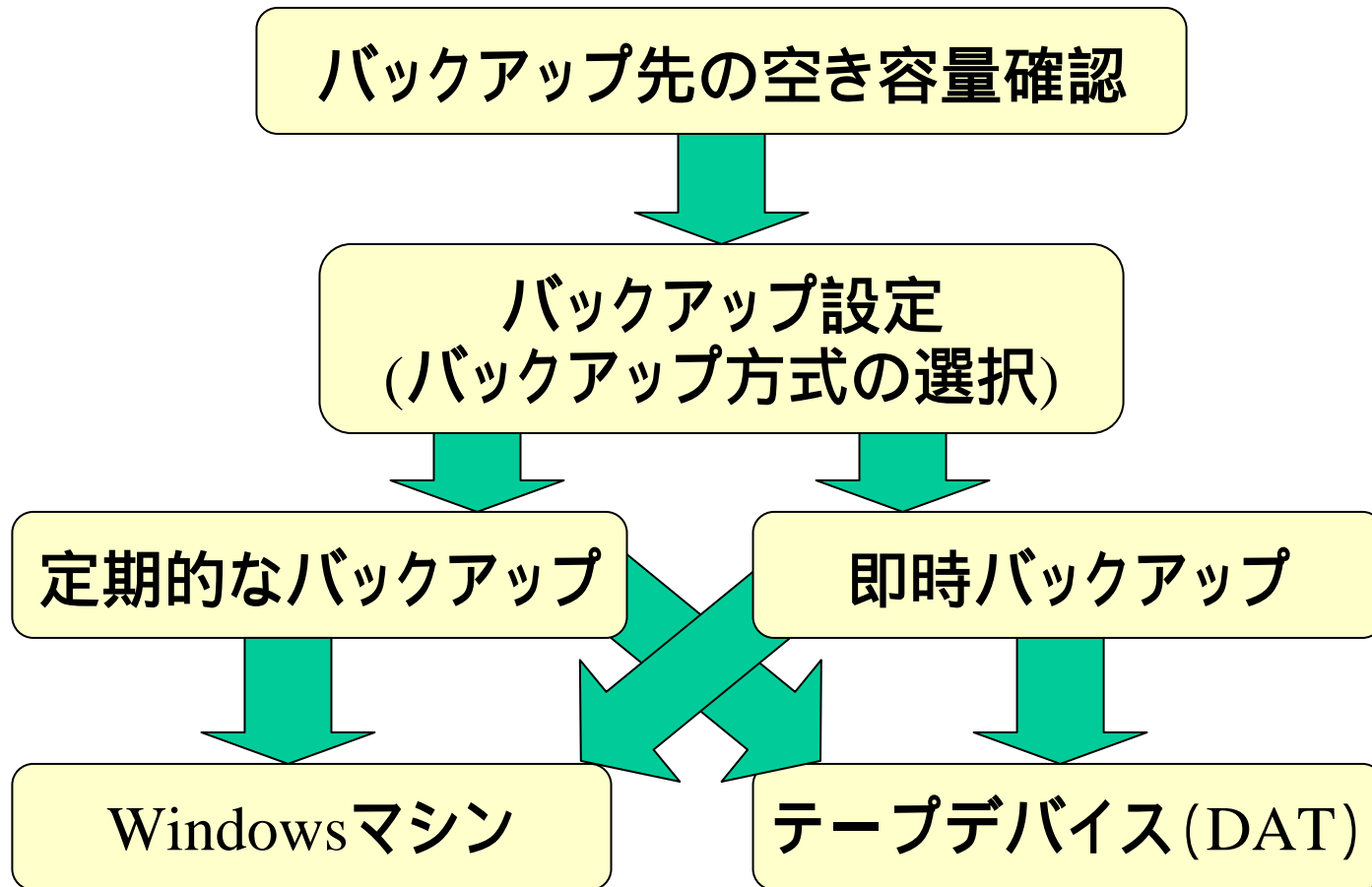
### (7) サービスの起動

Management Console の[サービス]画面からサービスを必要に応じて起動します。

## 参考資料

アップデートモジュールを適用する前に、バックアップを行って頂く必要があります。アップデートモジュール適用後に何らかの問題が発生し、アップデートモジュール適用前の状態に戻すこととなった場合、OSの再インストールおよびバックアップデータのリストアを行う必要があるため、必ず、バックアップを行って下さい。また、バックアップデータのリストアを行う場合、バックアップ時点と同じアップデートモジュール適用状態である必要があります。バックアップを行う前にアップデートモジュール適用状況の確認を行い、適用状況をメモ用紙等に控えておいて下さい。次ページ以降を参考に、運用形態に合った方法でバックアップを行って下さい。バックアップについては、ユーザズガイド、Management Console のヘルプにも詳しい説明がございますので、本手順書と合わせて参照して下さい。

# バックアップ手順





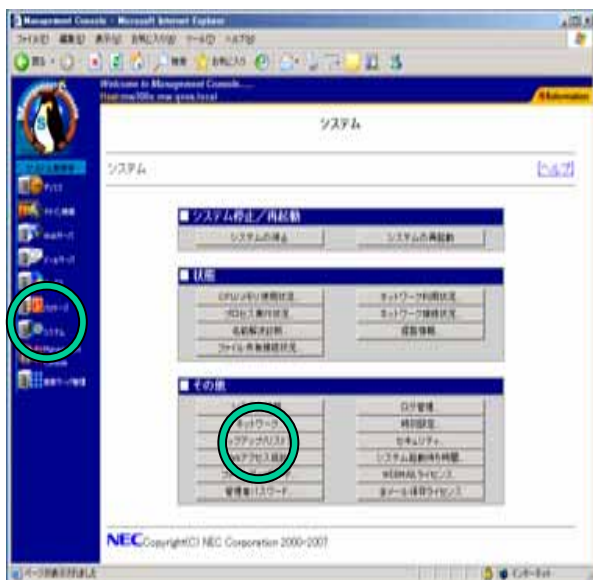
# バックアップ例1: Windowsマシンへの定期バックアップ(1/2)

## 1. Windowsマシンの共有フォルダの作成

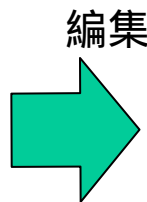
例: ネットワークで接続されたWindowsマシン「winpc」上に「user」というユーザーを用意し、「share」という共有フォルダを作成する。

## 2. Management Consoleによる設定(1/2)

Management Consoleで以下の順にクリックしてください。



システム



バックアップリスト一覧			
操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない

バックアップ / リストア

# バックアップ例1: Windowsマシンへの定期バックアップ(2/2)

## 2. Management Consoleによる設定(2/2)

以下の内容を入力してください。

### 世代・スケジュールの設定

例: 毎週月曜日の朝9:00にバックアップをとる。バックアップファイルは5世代分残す。

### Windowsマシンの設定

「Samba」をチェックし、Windowsマシンに接続するための設定を行う。

例: ワークグループ名「workgroup」、マシン名「winpc」、共有名「share」、ユーザ名「user」、パスワード「\*\*\*\*\*」

■ 編集

説明: システム全ファイル(ユーザ環境復旧)

世代: 5

スケジュール:  毎日  
 毎週 月曜日  
 毎月 1 日  
 バックアップしない

時刻: 9 時 0 分にバックアップ

バックアップ方式:

ローカルディスクディレクトリ: /var/backup

Samba

ワークグループ名: workgroup (NTドメイン名)

Windowsマシン名: winpc

共有名: share

ユーザ名: user

パスワード: \*\*\*\*\*

設定 即実行

最後に[設定]ボタンをクリック

## バックアップ例2: Windowsマシンへの即時バックアップ(1/2)

即時バックアップは、定期バックアップの操作とほぼ同じです。異なる点は、Management Consoleの設定中以下の画面で「世代・スケジュール」の設定を行わないこと、最後に「即実行」ボタンをクリックすることです。

世代・スケジュールを  
設定しない

■ 編集

説明: システム全ファイル(ユーザ環境復旧)

世代: 5

スケジュール:  毎日  
 毎週 日曜日  
 毎月 1 日  
 バックアップしない

時刻: 0 時 0 分にバックアップ

バックアップ方式:

ローカルディスクディレクトリ: /var/backup

Samba

ワークグループ名: workgroup  
(NTドメイン名)

Windowsマシン名: winpc

共有名: share

ユーザ名: user

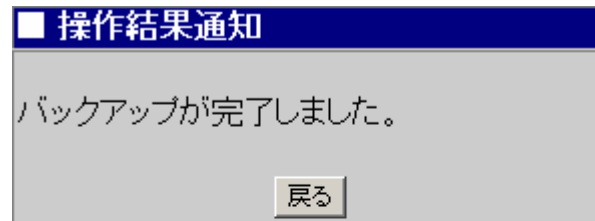
パスワード: .....

設定 即実行

最後に「即実行」ボタンをクリック

## バックアップ例2 : Windows マシンへの即時バックアップ (2/2)

「即実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。

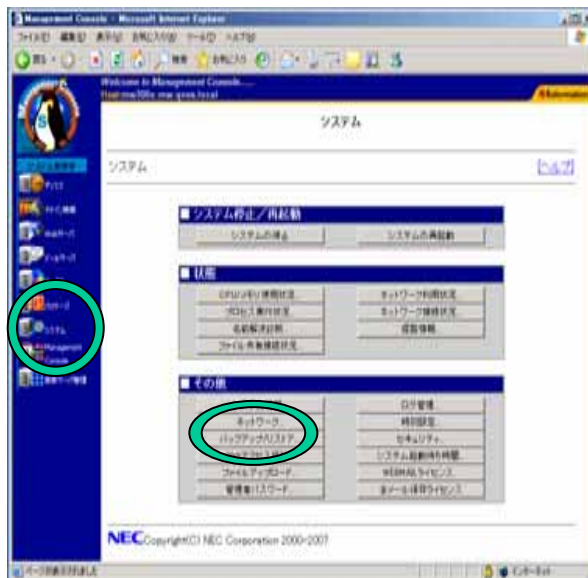


### 注意

「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」に含まれていませんので、必要であれば「各種ログファイル」を選択して同じ手順でバックアップを行う必要があります。

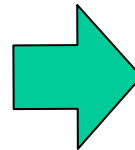
# バックアップ例3: テープデバイス(DAT)への定期バックアップ(1/2)

テープデバイス(DAT)が正しく接続されていることを確認して、Management Consoleから以下の操作を行って下さい。



システム

バックアップ / リストア



バックアップリスト一覧			
操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ			バックアップしない

テープバックアップ

# バックアップ例3: テープデバイス(DAT)への定期バックアップ(2/2)

以下の内容を入力してください。

テープデバイス名を指定する

■ テープデバイス

デバイス名  
/dev/nst0

設定

世代・スケジュールの設定

例: 毎週月曜日の朝9:00 にバックアップをとる。

■ バックアップ

スケジュール:  毎日  
 毎週 月曜日  
 毎月 日  
 バックアップしない

時刻: 9 時 0 分にバックアップ

バックアップ対象

- システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
  - システム、各種サーバの設定ファイル
  - ユーザのホームディレクトリ
  - メールスプール
  - メーリングリスト
- 各種ログファイル
- ディレクトリ指定

設定 即実行

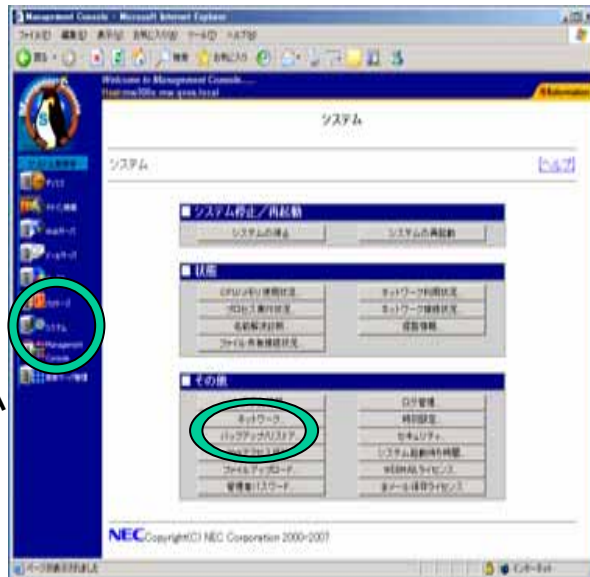
ここをチェックする

必要であればチェックする

最後に「設定」ボタンをクリック

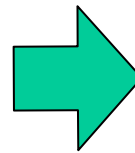
# バックアップ例4: テープデバイス(DAT)への即時バックアップ(1/3)

テープデバイス(DAT)が正しく接続されていることを確認して、Management Consoleから以下の操作を行って下さい。



システム

バックアップ/リストア



バックアップ/リストア一覧			
操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ			バックアップしない

テープバックアップ

# バックアップ例4:テープデバイス(DAT)への即時バックアップ(2/3)

バックアップを実行します。

テープデバイス名を指定する

■ テープデバイス

デバイス名

このみチェックすればよい

■ バックアップ

スケジュール:  毎日  
 毎週   
 毎月  日  
 バックアップしない

時刻:  時  分にバックアップ

バックアップ対象

- システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
  - システム、各種サーバの設定ファイル
  - ユーザのホームディレクトリ
  - メールスプール
  - メーリングリスト
- 各種ログファイル
- ディレクトリ指定

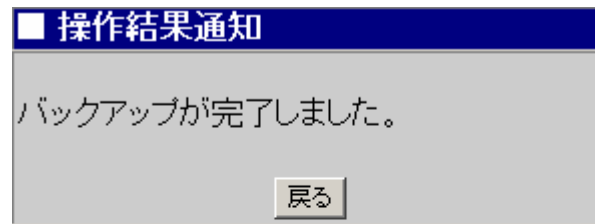
必要であればチェックする

「即実行」ボタンをクリック



## バックアップ例4：テープデバイス(DAT)への即時バックアップ(3/3)

「実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。



## バックアップの補足事項(1/2)

1. 「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」に含まれていないので、必要に応じて「各種ログファイル」をバックアップする必要があります。
2. 「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」のバックアップは、
  - ・システム、各種サーバの設定ファイル
  - ・ユーザのホームディレクトリ
  - ・メールスプール
  - ・メーリングリスト

の項目をバックアップすることと同じ意味になります。

両方の項目を指定すると、二重にバックアップされますので領域/時間の無駄が発生します(動作上の問題はありません)。

ただし、ロードバランスクラスタ形態の場合、メールスプールとメーリングリストは含まれません。

## バックアップの補足事項(2/2)

- 3 . ESMPRO関連の情報はバックアップされません(リストアによる動作が保証されていないためです)。したがってESMPRO関連の設定については、OS再インストール後、ユーザーズガイドに従い改めて行ってください。
- 4 . バックアップデータのリストアを行う場合、バックアップ時点と同じアップデートモジュール適用状態である必要があります。バックアップを行う前にアップデートモジュール適用状況の確認を行い、適用状況をメモ用紙等に控えておいてください。